

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 1 区分

【発行日】平成27年12月17日 (2015.12.17)

【公開番号】特開2015-187607(P2015-187607A)

【公開日】平成27年10月29日 (2015.10.29)

【年通号数】公開・登録公報2015-066

【出願番号】特願2015-47649(P2015-47649)

【国際特許分類】

G 0 1 N 27/416 (2006.01)

G 0 1 N 27/327 (2006.01)

G 0 1 N 33/579 (2006.01)

【F I】

G 0 1 N 27/46 3 3 6 G

G 0 1 N 27/30 3 5 1

G 0 1 N 33/579

【手続補正書】

【提出日】平成27年10月27日 (2015.10.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

微生物夾雑物を含む被検体、ライセート試薬およびパラメトキシアニリンが結合したペプチドを接触させて、多段階反応により前記ペプチドからパラメトキシアニリンの遊離反応を生じさせる反応工程と、

前記遊離反応後の、前記被検体、前記ライセート試薬および前記ペプチドの混合物に対して、電気化学反応により測定される電流値に基づいて微生物夾雑物を定量する測定工程と

を有することを特徴とする微生物夾雑物の濃度検出方法。

【請求項 2】

前記微生物夾雑物がエンドトキシンまたは (1 → 3) - β - D - グルカンであることを特徴とする請求項 1 に記載の微生物夾雑物の濃度検出方法。

【請求項 3】

前記ペプチドは、一端にパラメトキシアニリンが結合し、他端にペプチドの保護基が結合したオリゴペプチドであることを特徴とする請求項 1 または請求項 2 に記載の微生物夾雑物の濃度検出方法。

【請求項 4】

前記電気化学反応による測定方法がアンペロメトリ法であることを特徴とする請求項 1 から請求項 3 までのいずれかに記載の微生物夾雑物の濃度検出方法。

【請求項 5】

前記多段階反応および前記遊離反応時に加温することを特徴とする請求項 1 から請求項 4 までのいずれかに記載の微生物夾雑物の濃度検出方法。

【請求項 6】

基板と、

前記基板上に形成され、微生物夾雑物を含む被検体を収容し得る収容部と、

前記収容部内に配置された電極と

を有し、

前記被検体を導入する導入口から前記収容部の間にパラメトキシアニリンが結合したペプチドが配置されていることを特徴とする電極チップ。

【請求項 7】

一端が前記収容部に接続され、他端が前記導入口に接続された流路をさらに有することを特徴とする請求項 6に記載の電極チップ。

【請求項 8】

前記導入口から前記収容部の間にライセート試薬が配置されていることを特徴とする請求項 6 または請求項 7 に記載の電極チップ。

【請求項 9】

一端にパラメトキシアニリンが結合し、他端にペプチドの保護基が結合していることを特徴とするオリゴペプチド。